



“DCに来たらRock Creek Parkへ” のススメ

私の住むワシントンDCには、特許関係の仕事をする日本人がよく来られます。出張はもちろんですが、研修、駐在、パテント・エージェント試験受験などを目的としてリピート滞在される方も多いです。しかしその割りに、そうした日本人特許関係者にほとんど知られていなくてもったいなあと常日頃思っている場所がワシントンDCにあります。それがロック・クリーク・パーク（Rock Creek Park）です。

ロック・クリーク・パークは、削られたダイヤモンド形のワシントンDC内にあって街を南北に縦断している巨大な公園です。「パーク」とはいつでも日本でそう呼ぶような公園ではなく、単なる森に近いものです。地形的に谷になっているところで、中央にはポトマック川に流れ込む支流河川ロック・クリークが流れています。その川沿いの一帯の森が、米国国立公園協会（NPS）の管理する国立公園に指定されているのです。



古くはアメリカン・インディアンが狩猟や漁、また採石をする場所だったそうです。Rock Creekの名前は、そのあたりからきたのでしょうか。後年、ヨーロッパからの移民が入

ってくると、彼らはその辺りの土地を農地として利用し始め、Rock Creek川沿いに大きな石臼を置いた水車小屋、つまり製粉所をつくりました。今でも水車小屋跡がいくつも残っています。南北戦争時には、南軍歩兵の歩みを困難にするため北軍側が木を伐採して森を丸坊主にし、倒した木を障害物としてパーク中にばら撒いたそうです。標高差がある地形を活かしてフォート（要塞）も造られ、今でも要塞跡が残っています。

そのような歴史を経て、ロック・クリーク・パークが連邦政府によって、国民の福利厚生のための公園と定められたのは1890年のことです。そんな昔に、国民のレクリエーションを目的とした場所にする決定を下した連邦政府はなかなか豪気だったと思います。それ以降、今日に至るまで、このパークは恐らく公園創立当時とたいして変わらない状態で存在し続けています。



パークには整備された遊歩道だけでなく、鹿や狐などの野生動物がつくった獣道に近いトレイルが縦横に網目のように走っています。これらの道は、丘あり、谷あり、小川ありの未舗装道で、そこを歩くのは散歩というよりトレッキングに近いものになります。



またパークの中央を縦断するようにビーチ・ドライブ (Beach Drive) という車道が通っていて、平日は通勤路としても機能していますが、週末には歩行者・自転車天国になります。そこでは、排気ガスフリーのランニングやサイクリングもできます。



来るとわかるのですが、こんなに自然豊かな場所が一国の首都のど真ん中にあるというのは驚くべきことです。街中の大公園というと、ニューヨークのセントラル・パークや東京の新宿御苑を思い出すかもしれませんが、人間の手によって開拓され整備された、それらの公園とは全く趣が違います。街の中心に自然森が一つボン！と存在している感覚です。そこには野生動物がたくさん住んでおり、実に贅沢で、素晴らしい場所なのです。

ところが、日本から来た人にこのパークのことを話すと、皆さん一様に「へえ、DCにそんなところがあるんですか」と言われるのです。何度も来ているリピーターでも、たいい「そんな場所がありましたっけ？」というような反応をされてしまいます。それが私

にはもったいなく感じられます。たいていの人はDCに仕事で来ているわけですから、散歩するような時間はないのかもしれませんが。でも、それにしても、せっかくDCに来ているのに、すぐそこにある豊かな自然に触れずに帰ってしまうのは、とてももったいなく思えます。

実は私の自宅はパークから1ブロックしか離れていないところにあります。今の家に住み始めたのは10年前なのですが、家探しをしていた当時は、パークに近いなどということとはまったく考慮しておりませんでした。ワシントンDC内にある職場への通勤に楽だというのが主たる理由で引越して来たのですが、引越してから1カ月ほどしてひょんなことから大型犬を預かることになり、散歩をしなければならなくなりました。それで初めて、自分がどんなに自然に恵まれた場所に引越して来たかを理解したのです。

ロック・クリーク・パークの利用法で、私のオススメはなんといっても散歩。てくてくとひたすら歩き、疲れたら小川のほとりに腰掛けてせせらぎの音を楽しむ。ストレスフリーで非常に健康的な時間が過ごせます。今度ワシントンDCに来られる方で、私とペット犬といっしょに散歩をしてみたいと思われた方は、ぜひご連絡下さい。ロック・クリーク・パークを一緒に楽しみましょう。

筆者紹介

宮川良夫 (みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント
1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。
1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイビー特許業務法人を初めとして、世界7カ国(地域)にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はGlobal IP Counselors, LLP。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子(孫?)育て。好きな言葉は「天地不仁」。